

創刊の辞

先端社会研究所は、21世紀 COE プログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」（2003年～2008年）の成果に基づき、これを継続・発展させるために、2008年4月に開設された研究所である。21世紀 COE プログラムの機関誌として、『先端社会研究』が第6号まで刊行されたが、『先端社会研究所紀要』は、「先端性」という『先端社会研究』がめざした精神を積極的に受け継ぐものである。

21世紀 COE プログラムの拠点リーダーだった高坂健次は、『先端社会研究』創刊号で、先端性を次のように定義している。

先端性とは何か。それは未開拓、月並みでないこと、非自明、先駆け、最新、新奇、創造、革新、等の複合的な意味を指している。

この定義で重要なのは、「創造」のように誰もが認める価値だけではなく、「新奇」のようにどこかにうさん臭さ、いかがわしさがあるようなものを、先端性という複合的な意味を持つことばの定義に含めている点である。科学史上の通俗的なエピソードを見ればわかるように、真に先端的な試みは、すぐに理解されるわけではない。むしろ、先端的であることは、孤独と背中合わせであり、孤立することを怖れず、孤独のなかにこそ、創造の自由があることを自覚することである。

「月並みでないこと」もまた、孤立を強いる。それは、大多数に同調せず、大多数の関心とはまったく別のところに関心を寄せ続けることだからである。先端的であることは、流行とは無縁でいることである。

また、先端的であるためには、平準化の波に足を掬われないことでもある。誤解を怖れずにいえば、平等は、先端性からもっとも遠い価値であり、逸脱や、場合によっては偏屈のほうが、先端性に近い。

先端社会研究所は、以上のような精神に基づき、研究を進めている。『先端社会研究所紀要』は、その研究の経過を報告するための機関誌である。そこには、完成された論文だけではなく、大胆な主張、新奇な、あるいは奇想天外なアイデアが、展開されるはずである。

2009年2月

関西学院大学先端社会研究所所長
荻野昌弘